

誇る半導体

ストレージ「Super SSD FLEX(G3)」

<http://www.cmsinc.co.jp/news/2013/news201311210.html>

【解説】 Super SSD FLEX(G3) は、次世代半導体ストレージとして、性能/容量 / 価格の課題を解決するために開発された先進の超大容量DRAM キャッシュ搭載のハイブリッドSSD ストレージ装置です。DRAMキャッシュは最大で768GB、SSD容量は最大で38.4TB まで対応することができます。各種のホストアプリケーション (DB/OLTP, BI/DWH, Hadoop, VDI, VMware/Hyper-v, Media, etc) に最適な特性のSSDストレージシステムとして選択、構成することができます。コストパフォーマンスの極大化を計ることができます。

【掲載結果】 キーマンズネット、日刊工業新聞、ZDnet、CNET、朝日新聞、インプレスWeb担当者フォーラムなど7メディアに掲載されました。

キーマンズネット

<http://www.keyman.or.jp/nw/server/storage/20052063/>

◇12月11日発表

「Amazon S3」、「Cloudn」をバックエンドストレージに採用した Cluster in a Box型 高可用性フルアクティブクラスター型クラウドNAS

「Hybrid CloudNAS WSS2012R2」

<http://www.cmsinc.co.jp/news/2013/news201311211.html>

【解説】 Windows Storage Server 2012R2とクラウドストレージをシームレスに接続するCloudArrayキャッシュゲートウェイにより、バックエンドのクラウドストレージを高速なオンプレミスNASとして使用できます。高い拡張性と堅牢性 / 可用性が特長のクラウドストレージを、メインストレージNAS / バックアップ / DRとして利用可能です。バックエンドのクラウドストレージと連携

し、容量に応じた月額料金の選択式でご利用いただけます。ハイブリッドクラウド型のNAS／バックアップ／DR環境を低価格で導入することが可能です。

【掲載結果】インターネットコム、Exciteニュース、MSNトピックス、@niftyニュース、ニコニコニュース、GREEニュース、アメーバニュース、朝日新聞、CNET、ZDnet、インプレスWeb担当者フォーラムなど13メディアに掲載されました。

インターネットコム

<http://japan.internet.com/webtech/20131211/5.html>

◇12月16日発表

国内初となる、既存オンプレミスアプリケーションのパブリッククラウドへのダイナミックな拡張／移行／HA／DRの自動化を実現するソフトウェア

「One Hybrid Cloud」

<http://www.cmsinc.co.jp/news/2013/news201312160.html>

【解説】従来では不可能だった既存アプリケーションのダイナミックなDR／HAフェイルオーバー／開発環境相互移行／過負荷時クラウドバースティングなどをOne Hybrid Cloudは可能にします。また複数のパブリッククラウドへの対応を可能にすることにより、クラウドベンダーロックインからも解放されます。クラウド時代での最も効率的かつセキュアなハイブリッドクラウド環境を構築することができます。

◆◆>[ストレージ・マーケティングコラム]<◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆
◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

第十八回：2014年景気予測、民需企業設備投資3.8%増へ

三菱総合研究所は発表した予測によりますと、2014年景気予測で民

需企業設備投資
3.8%増となるそうです。

資料には「日本経済は、マインド改善による消費回復という第一段階から、業績改善による更新投資の再開や雇用情勢の改善という第二段階へと移り始めた兆候が見られる。」とし、2014年民需企業設備投資を3.8%増と予測したそうです。2013年予測が1.3%増であり、2012年は▲1.4%ということでしたので、2012年と比べるとかなり良い結果になりそうに思えます。

三菱総研のレポートは以下をご覧ください。
http://www.mri.co.jp/NEWS/report/mitoushi/pr20130813_pec.pdf

増加する民需企業設備投資の全てがITインフラに投資されるわけではないですが、全体的な数値がよいのは良いことだと思います。

さて、本題に入りますが、設備投資の効果を最大限に引き出すための投資は適切な投資内容であることだと思います。クラウドが存在しない時代では、予め需要を予想してIT投資をするか、需要が供給を超えそうなタイミングで追加投資をしていくしかありませんでした。小出しの追加投資は意外にコストがかかるのですし、必ず追加設備の配備にはある程度の時間がかかっていました。

ストレージの世界においてはクラウドとダイナミックに連携することで、急激な需要増に対してバックエンドのクラウドを活用したりなど、ローカルストレージのメリットを活かしつつ、リニアな容量増加（リニアな投資）を実現できるようになりました。読者の皆様には是非、投資対効果が高い弊社ソリューションを選択いただきたいです。

（編集：マーケティング・アドバイザー 吉政忠志）

031_CNL

を埋め、返信して下さい。

変更の場合、旧送付先：
（１）メールアドレス：
（２）氏名：
（３）会社名：
（４）部署名：
（５）役職名：

発行人：コアマイクロシステムズ株式会社 吉政 忠志
————— (C) Core Micro Systems Inc., All Rights
Reserved —